
活動目標

《9》住民の自主活動に繋がる情報の伝達

〈住民の声〉

(1)生活と暮らしの情報

- ①病院が近くになく両親を仕事を休んで送っている。往診などの対応をしてほしい。
- ②高齢者・障がい者に対し、ワクチンなどの補助を出してほしい。
- ③福祉器具（歩行器等）やベビーカーなどの貸し出しをしてほしい。
- ④気軽に相談できるところがほしい。
- ⑤火災報知機の情報がわからない。
- ⑥雨の日に利用できるグラウンドがほしい。

(2)各種福祉サービス情報

- ⑦介護保険以外の高齢者福祉サービスの情報が分からない。
- ⑧ファミリーサポートセンターの内容が理解されていない。
- ⑨ももっこカード情報が届いていない。

(3)市民活動支援情報

- ⑩地区で行事をする時に、講師等紹介してくれるところが分からない。
- ⑪高齢者サロンで弁当に助成金がない。助成対象にしてほしい。
- ⑫スポ少、団体、市民活動の助成金が不足している。
- ⑬ボランティアに対する理解が薄い。情報がほしい。

(4)報告と紹介

- ⑭アンケート結果を教えてください。
- ⑮職場が少ない。
- ⑯社会福祉協議会の事業や寄付金・会費の使途が分からない。

※ファミリーサポートセンターとは？

地域において育児や介護の援助を受けたい人と行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織です。

※ももっこカードとは？

協賛企業などでの買い物や娯楽施設を利用する時、カードを提示すると子育て支援サービスの特典が受けれます。

■ 取り組み方法

私たちの生活では、高齢者、障がい者、子育てなど多様な情報が飛び交っています。この多種多様な情報を、必要なときに、必要な情報が住民に知らせることができる体制づくりを進めます。また、地域でも普段からサービス情報など生活に必要な知識を養うことで、近隣での話し合いの中での情報提供ができるよう啓発を行います。

〈取り組みの内容〉

(1) 生活と暮らしの情報

- ①大原病院や作東診療所の充実と近隣に対しての情報を提供する。
- ②高齢者に対する補助金情報を啓発する。
- ③福祉器具やベビーカー等の貸し出しを充実する。
- ④気軽にできる相談窓口を充実する。
- ⑤火災報知機の情報を消防署などから発信する。
- ⑥雨の日でも利用できるかつたひまわりドーム等運動広場を広報する。

(2) 各種福祉サービス情報

- ⑦介護保険以外の高齢者福祉サービス情報紙を作成し、地域へ提供する。
- ⑧ファミリーサポートセンター活動を啓発する。
- ⑨もっこカード情報を情報紙、社協だより等で啓発する。

(3) 市民活動支援情報

- ⑩講師や講師情報提供先の情報を分かりやすくする。
- ⑪助成金だけでなく高齢者サロンの自主的な運営を推進する。
- ⑫スポ少や市民活動に対し、社協や行政だけでなく、一般企業の助成金情報を紹介する。
- ⑬ボランティア活動に取り組めるボランティア情報を提供する。

(4) 報告と紹介

- ⑭地域福祉活動計画アンケート集計結果を報告する。
- ⑮就労場所及び介護職場を紹介する。
- ⑯寄付金、会費の使途や社会福祉協議会の事業情報を周知、明確化する。